

教育目標		「いのち」かがやく 瑞穂の子 ～心豊かに たくましく～					
重点目標		1. 学習の充実 2. 豊かな人間性の醸成 3. 学級経営・学年経営の充実 4. 家庭・地域との連携					
項目	重点目標	達成目標	具体的施策	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 単元が終わるごとにテストを行い、必要な児童には補充学習を行う。 年度末テストでは、一年の成果として正答率を70%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい教科書に合わせ複数年活用することを意識した単元テストを作成する。 漢字小テスト、プチプリ、音読計算などを継続して行う。 プリントやテストは、職員間で活用できるようにデータに残し、業者テストも適切に活用していく。 休み時間等を利用し、再テストを含めた補充学習を行っていく。 教材研究、授業研究を行い、「よりわかりやすい授業」を作っていく努力をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教師アンケート「単元終わりのテストを行っている」は97%が肯定的意見で、前年度より7%上がっている。学力が定着しているのかをより細かく知ろうという意識が上がっている表れだと感じる。 正答率70%に満たない児童に対して、休み時間などを使って補充学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教材研究、授業研究を行い、手本の見せ方や説明の仕方など、「よりわかりやすい授業」を作っていく努力をする。 補充学習等で個別の指導をできる限り行う。 業者テストを適切に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導の徹底に尽力して欲しい。 補充学習は大変だと思いが粘り強くお願いしたい。 補充学習等での正答率向上の具体的な数値等があれば、評価が容易だが…。
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して研究のテーマに沿った、授業研究に取り組む。 研究発表会に向けて計画的に授業研究会、研修会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業から研究テーマに沿った展開を意識するように啓発する。 これまでの成果と課題を活かしつつ、学年の系統性を踏まえた研究推進計画を立てる。 各学年一本、研究授業を行う。 一人一授業を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会までの予定をしっかり立て、実施することができた。 3回の授業研究会を行い、その都度講師を招いて研修会が実施できた。 来年度からの研究の3年計画を入念に立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを基に、児童の実態に合わせた研究推進計画を立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々、多忙を極めておられる先生方が研究発表会をされていることが素晴らしいと思います。 いろいろな授業のやり方を知ることで良い事だと思います。
	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで『進んで読書をしていますか』という質問に対して肯定的回答の割合が70%以上になる。 読書冊数1人あたり、一年間で50冊以上になる。 高学年はページ数でカウントでもよいものとし、その場合3000ページ以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日全クラスで朝読書を実施する。 夏休み中の図書館開放・学級文庫の充実。 読書記録カード、読書の木、表彰などの取り組みを行い、読書に興味を持たせる。 学級文庫の本を学期ごとに入れ替える。 各学年の廊下にブックトラックを増やして、身近に本が手に取れるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 読書を楽しんでいると肯定的に回答した児童は89%と、前年度よりも15%増加した。 読書記録カードに記入した冊数(ページ数)で花びらを1枚貼ることができる読書の木は3本目になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書記録カードに記入する取り組みが定着しつつあるので、引き続き続けていく。 第2図書室の教室を配置移動・整備を行い、児童が使用しやすい環境に整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度より「楽しんでいる」回答が15%増というのは取り組みが充実していることだと思います。更に児童が使用しやすい環境を整えていただければ幸いです。
学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> わかる授業づくりをすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで『授業はわかりやすく楽しいですか』という質問に対して「そう思う」の回答の割合が70%以上になる。 児童アンケートで『先生は、お手本を見せてくれたり、絵やものを使って説明してくれたりしていますか』という質問に対して「そう思う」の回答の割合が80%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向け、自主的に研修会に参加する。 学習意欲が高まるような授業力のさらなる向上に向けて、学年・学団を中心に研修をおこなったり、ICT機器の活用に取り組んだりする。 校内自主研修会(午後teaの会)を計画的に行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 『授業はわかりやすく楽しいですか』という質問に対して「そう思う」の割合が70%だった。 『先生は、お手本を見せてくれたり、絵やものを使って説明してくれたりしていますか』という質問に対して「そう思う」の割合が85%だった。 校内自主研修会(午後teaの会)を計画的に開くことが難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに学習意欲が高まるよう、児童の実態を把握し、それに合わせた授業づくりを行っていく。 教員の授業力向上や児童の興味・関心を高めるために、教材開発やICT機器の活用に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の先生の授業を見るのはとても大切なこと。特に若い先生方にはほとんどベテランの先生の授業を見に行ってもらいたいです。 授業を参観しても丁寧で楽しい授業だなと感じています。日々先生方が努力工夫されている賜物だと思います。

		家庭学習の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで『家でも、進んで学習していますか』という質問に対して肯定的回答の割合が80%以上になる。 ・保護者アンケートで『家庭での学習の習慣が身についていますか』という質問に対して肯定的回答の割合が80%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習（瑞穂っ子教室）などの補充学習。 ・土曜みずほっ子教室の実施 ・学年に応じた自主学習の取り組み。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「家でも進んで学習しているか」79%が肯定的で、前年度より3%上がった。 ・保護者アンケート「家庭学習の習慣がある」は81%が肯定的で、前年度より3%上がった。 ・共に、昨年度よりも上がり、保護者アンケートでは目標達成ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師アンケート「学年目標に見合った宿題」90%以上が肯定的意見であり、前年度よりも上がり、家庭学習をより児童に定着させようとする教師の意識は一定上がっているように思う。 ・児童の実感、意欲も上がっているの、今の取り組みを継続しつつ、児童の実態に合わせた工夫をこれからも考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題と Ipad の自主学習は今後より一層重要になると思います。積極的に働きかけをしてほしいです。 ・学校の授業はみな同じように受けられても家庭学習は家庭による差が大きいように思う。学校と保護者の連携が十分にとれているか確認してほしい。
		デジタル化の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートで『ICT を活用して、授業を行っている』という質問に対して、肯定的回答の割合が89%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 教育の推進のための研修の実施。 ・ICT 機器の充実。 ・ICT 支援員の授業支援。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート「ICT 活用」の項目で、96%が肯定的な回答だった。 ・情報研修会を計画的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいソフトや機器にすぐに対応できるように、研修体制を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方も新しい技術の習得は難しいと思いますが頑張ってください。
豊かな心・健やかな体	基本的な生活習慣の定着	健康管理の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・体力作りの取り組みを実施し、多様な動きを身につけさせるとともに、全国の平均の数値を目指す。 ・児童アンケートで『毎日、早寝早起きをし、朝ご飯を食べていますか』という質問に対して肯定的回答の割合が85%以上になる。 ・給食アレルギー対応プランの確実な実施のためのシステムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに体力を向上させる運動を年間通じて実施し、体力向上に努める。 ・基本的な生活習慣について、保健や食育等の時間を中心に日々の生活の中で指導を継続的に行う。 ・保護者と協力しながら早寝・早起き・朝ごはんの指導にあたる。 ・アレルギー対策委員会や研修を年間2回以上ひらくことで、職員の共通理解を深める。 ・感染予防の行動として手洗いの児童の徹底をさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・男子は全種目で全国平均値を超えることができたが、女子の投力、持久力に課題が見られた。 ・児童の結果は、昨年度と同じであり、目標に達していなかった。 ・研修やシステムの構築はできた。書類の提出については保護者の協力が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して基礎体力の向上が図れるよう、カリキュラムを工夫する。 ・基本的な生活習慣を身につけるなど具体的な指導と啓発に務める。 ・引き続き連絡を重ね、協力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力は学力向上の基礎となります。休み時間に運動場に出たくなるようなしくみをお願いしたい。 ・小学生のうちに楽しく体を動かす経験をたくさんしてほしい。
		基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・自らあいさつをする・名札をつける・くつやスリッパをそろえる・そうじに熱心に取り組む・ろうかやかいだんを歩く・外で元気に遊ぶ子どもたちの姿を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での過ごし方について全職員で年度初めに共通理解し、指導にあたる。 ・子どもたちの実態を踏まえて、職員で毎月の生活目標を決め、児童の指導にあたる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をしているかというアンケートは、肯定的回答が94%だった。あいさつ運動も再開し、元気に挨拶する児童が増えたという意見があった。 ・廊下や階段を歩くという項目については、82%だったが、実際は走っている児童が数多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に挨拶をするよう教師による声掛けを引き続き行っていく。 ・廊下や階段の件については、委員会活動の一環で、声掛けや啓発ポスターといった取り組みを続けていきたい。また、漠然と「走ってはダメ」と指導するのではなく、なぜ歩かなければならないかという理由も指導する際には伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の重要性を伝承して欲しい。何故？を理解させることが重要です。 ・まずは大人からあいさつをする所を見せることが大切。 ・なぜそれがだめなのかと理由を伝えていくのはとても良いことだと思います。
	組織的な生徒指導	人権教育、道徳・同和教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで『学校で、自分や友だちを大切にすることを教えてもらっていますか』という質問に対して肯定的回答の割合が80%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間の充実（道徳と、人権教育の授業参観をそれぞれ年1回以上実施） ・児童の共通理解の場を持つ。 ・教師自身の人権感覚を磨くため、校内・校外の研修に参加する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の結果は、昨年度と同じで肯定的回答が80%以上あり目標に達していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の充実や、人権参観での取り組みを引き続き行っていく。 ・性的マイノリティについても低・中・高学年で授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人は古い考え方をしている場合もあるので、小学校でいろいろなことを教わるのはすごくいいなあと思います。

		いじめ問題への対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで『学校へ行くのが楽しいですか』という質問に対して肯定的回答の割合が90%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに立てた学級経営プランをもとに継続的な取り組みを行い、年度末に振り返るとともに、次年度につなげる。 ・不登校児童やアンケートで否定的な回答をした子など、定期的に児童についての情報交流を職員間で行い、共有する。 ・年間3回の生活指導研修会を行う。また、必要に応じて適宜研修会を行う。 ・学校行事を通して仲間作りに取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートでは、「学校は楽しいか」という項目で96%が肯定的な回答をしており、目標を上回った。一方で、肯定的回答ではない4%の児童がいることを忘れず、児童に寄り添っていくことが必要である。 ・児童の様子や状況について、アンケート報告会や毎月の児童の様子報告欄を通して、職員間で情報共有ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から取り組み始めたパソコン上の児童の様子報告欄を活用し、職員間で児童理解を深めていく。 ・学級経営プランを通して、身近な教員同士の学級経営のコツを知ったり、学級の様子や授業の様子を振り返ったりすることで、学級経営力の向上を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の問題は解決が困難ではありますが、少しでも前に進むよう努力していきましょう。 ・やはりこの4%の児童が気になります。先生方には感受性のアンテナを張っておいていただきたいです。
		安心安全な学校の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を実施し、緊急対応力を高める。 ・登下校指導を通して、児童の安全意識の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練と、1回の引き渡し訓練を行う。 ・全職員が年間1度以上の登校指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登下校に関して、児童の79%の児童が交通ルールを守れていると感じた。その一方で保護者は38%となっており児童と保護者で感覚の乖離が見られた。 ・不審者対応でも同じく児童83%、保護者26%と差が大きくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導で教師へ指導ポイントについて周知する。帰校後、積極的に意見を集め、職員タレでお知らせする。また、教室で児童へ指導する。 ・不審者対応訓練では、児童対象の訓練を復活させる。またその様子を学校便りや教室で振り返りをし、子どもが家でお家の人と対応について考えるように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携ができればと思います。 ・児童の安全を守るため、PTAと学校が連携できるようにしていきたい。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや学年通信を月1回以上発行する。 ・自校のホームページにより、学校の様子の発信や、地域の方へのお知らせを行う。 ・校長室前掲示板にて、学校の様子、児童のがんばりを掲示物や写真を通して伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや学年通信を月1回以上発行する。 ・学校ホームページを行事ごとに更新し、学校情報を積極的に発信したり、地域の方と意見を交流したりできる場を設ける。 ・校長室前掲示板を、児童、保護者、地域へ学校の情報を伝える場として活用する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページにより、学校情報を積極的に発信することができた。 ・「学校だより、学年だより、ホームページなどは、学校の様子を知るのに役立つ」という項目で、肯定的な回答が97%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も情報リテラシーに気をつけて、情報を発信していくことが必要である。 ・子ども達や教師の生の声を発信できるような方法を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も活用していったほしい。 ・地域への声も発信してください。